

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090400179		
法人名	協栄興産 株式会社		
事業所名	ふれあいの家 黄金 グループホーム (1ユニット・2ユニット)		
所在地	〒802-0071 福岡県北九州市小倉北区黄金1丁目9番12号 TEL 093-922-5182		
自己評価作成日	平成28年09月30日	評価結果確定日	平成28年11月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様が笑顔で生活していただける様、環境作りから食事等、入居者様やご家族の希望を取り入れ、安心して安全に過ごして頂ける様、全職員が協力して支援しております。

又、近隣には市場やスーパー、商店街等多く、買い物と一緒に出掛けたり、すぐそばの公園では季節の花を見学できます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ふれあいの家 黄金」は、認知症高齢者が重度化しても、地域の中で家族や親しい人達と支え合いながら安心して暮らす事が出来るように、5年前に開設した小規模多機能ホーム併設のグループホームである。毎月発行の「ふれあい通信」で利用者の健康状態や暮らしぶりを家族に報告し、年1回実施する家族アンケートの内容を本部がまとめ、苦情や提案については職員間で検討し、速やかに改善に取り組んでいる。往診体制と近所のかかりつけ医の受診を活用し、訪問看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、充実した医療連携が行われている。調理専門の職員が、利用者の嗜好や状態に合わせて、旬の食材を使った美味しい食事を提供し、利用者と職員と一緒に食べる家庭的な食事の時間は、利用者の生きる力となっている。研修や委員会活動を充実させる事で、職員の質の向上を目指し、利用者一人ひとりの個性に寄り添い、その人らしさを大切にされた支援に取り組む、グループホーム、「ふれあいの家 黄金」である。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年10月28日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を把握し、各入居者の思いを尊重し実践しております。	ホームが目指す介護のあり方を示した独自の理念を作成し、玄関と事務室に掲示し、毎月のミーティング時に唱和する等して、理念の共有に努めている。職員一人ひとりが理念を意識して利用者へ寄り添い、その人らしさを大切に介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、市場やスーパーでの買い物に同行して頂いたり、散歩で近隣の公園や市民センター等に出掛け、地域の方々とふれあいを大事にしております。	町内会に入り、利用者と職員は、地域の一員として、市民センターで行われる敬老会や七夕等の行事に参加している。近隣の市場へ買い物に出掛けたり、隣の公園で地域の方と言葉を交わす等、日常的な交流もある。また、ホームの夏祭りや餅つき大会の時には、運営推進会議を通じて地域の方へ案内を行っている。	近くに小中学校、幼稚園、保育園等があるので、小中学校の職場体験の受け入れ等、子ども達との交流を期待したい。また、地域交流スペースを地域に開放する等、地域に開かれた事業所を目指した取り組みが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の代表の方々に、介護の相談等あれば、声を掛けて下さる様伝えております。今現在は相談等ありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、当苑での事例等を取り上げ、参加者と話し合いを行っております。地域の方から、行事やイベントの情報を頂き、入居者様と一緒に参加しています。	会議は、併設小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、困難事例や事故等について報告し、参加委員からは、質問や要望、地域行事などの情報提供がある。会議がマンネリ化しないように、議題や内容を検討して取り組んでいる。	要となる地域代表や民生委員、家族代表、包括支援センター職員の参加を得ているので、参加委員を活かして、徘徊模擬訓練や認知症カフェ、地域に向けての介護相談等の取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方と情報交換を行い、生活保護の方が入居されていますので、ケースワーカーの方とも情報交換を行っております。	管理者は行政窓口にて、利用状況や介護の疑問点、困難事例、事故等について相談し、情報交換し連携を図っている。生活保護課やケースワーカーと連絡を取りながら、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修を受け、その中で身体拘束について学ぶ機会があり、年1回内部研修でも取り上げています。法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、年4回話し合いの場を設けている。	ホームの勉強会の中で、身体拘束について話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者にとってどのような影響を与えるかを理解し、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。また、法人内に身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な会議を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルを職員全員持っており、入社時にマニュアルで学ぶ機会があります。虐待等、見過ごされる事無いよう、職員同士の報告・連絡・相談を常日頃から行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修にて学ぶ機会があり、又、内部研修でも虐待防止について年1回行っています。 権利擁護が必要な場合は、関係者と密に連絡を取り合いできる体制にあります。	現在、権利擁護の制度活用者はいないが、資料やパンフレットを用意し、入居時に、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、利用者や家族に説明している。必要時には、制度の内容や手続きについて説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、「入居契約書」「重要事項説明書」、退居時「退居届出書」の文書により、十分説明を行い、署名、捺印を頂いています。 疑問点などは、理解して頂くまで説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っております。 アンケートで指摘された事柄は真摯に受け止め、改善策を全職員で検討し、即座に運営に反映出来る様努めております。	職員は、利用者との日常会話の中から意見、要望を聴き取っている。家族については、家族面会時や電話等で、意見や要望、苦情などを聴き取り、年に1回家族アンケートを実施して、出された意見や要望、苦情を、ホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。また、「ふれあい通信」を家族に送付し、利用者の近況を伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が定期的に個人面談を行い、意見や提案等の拾い上げを行い、改善の取り組みを行っています。	毎月の職員会議を、カンファレンスを兼ねて実施し、管理者は、職員の意見や要望、アイデア等が提案しやすい雰囲気作りを心掛け、活発な意見交換の場になっている。出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。また、年2回職員面談を行い、悩みや心配事の相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員には、自己目標を決め、期間が終わると管理者が評価しております。 また、健康診断や人事考課の実施も行っております。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等関係なく採用しております。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、管理者は、職員の特技や能力を把握し、役割分担や勤務体制に柔軟に配慮し、職員が働きやすい職場を目指している。また、休憩時間や希望休が確保されるように取り組み、職員一人ひとりがリフレッシュしながら働ける就労環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修、内部研修で年1回外部講師を招き、人権教育について学んでいます。 市民センターの人権講座に参加する等している。	利用者の人権を尊重する介護のあり方について、研修会や職員会議の中で話し合い、利用者が持っている価値観や生活習慣を尊重し、利用者一人ひとりに合わせた介護の実践が出来るように努力している。また、法人内研修の中で、福岡県の出前講座を依頼し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人と話す機会を設けています。各職員の力量を把握し、社内研修に参加するよう努めています。 また、外部研修の際はシフトの調整をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあい会内部での交流はあります。 同業他社との交流はありません。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の一人一人の声に耳を傾け、不安を取り除ける様声掛けしております。 良い関係を築ける様、信頼関係の構築をしっかりと行っております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時、見学時に、ご本人、ご家族と話し合い、要望を聞き、今後とも良い関係を継続する事が出来る様努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その方が必要としている事は何か？」を考察し、支援しております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリ等に参加して頂いております。 全て職員が行うのではなく、入居者が出来る事は入居者にして頂ける様にしております。 また、入居者様から教わる事も多く、昔からのしきたり等、教わる事があります。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出で外食等楽しめる入居者や、稀に病院受診を家族が同行される事もあります。家族と入居者の関係を大事にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣施設や公園等に出掛けられ、馴染みの場所との関係が途切れないよう努めています。	利用者の友人や知人の面会があり、ゆっくり寛いで話せるよう配慮し、訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。利用者の馴染みの商店や食事処、かかりつけ医に職員が同行し、馴染みの人と交流する事で、利用者の笑顔や明るさが戻り、生きる力に繋げている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く過ごして頂ける様、席の配置を皆で協議し決定しております。 また、関係悪化しないよう、常に会話に耳を傾けてその都度対応しております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に宛に手紙が届くことが多く、その都度一筆挨拶状を入れ郵送しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報だけでなく、入居者様の思いを把握するように努めています。 又、日常生活の中で、言動、表情、しぐさ等を見逃さず、記録し、介護計画を作成し実践しています。	職員は、利用者との暮らしの中での会話から、思いや意向の把握に努め、職員間で共有し、介護サービスに反映させている。意思疎通の困難な利用者については、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添い、表情や仕草から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族からの情報提供により生活歴を把握しております。 その他の情報は日々の職員とのふれあいの中で会話の中で模索するようしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムが継続できるように、日々、「出来る事」、「出来ない事」、「出来そうな事」をアセスメントシートを活用し職員間で情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意向を伺い、介護計画書の原案を提示し、各職員から意見をもらい、作成しています。 半年ごとの見直しを行っています。	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を聴き取り、毎月のカンファレンスで検討し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、定期的に介護計画の実施状況や、目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者の日々の様子は介護記録に記入しております。 勤務を始める際、申し送りをを行い、情報共有を行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望をプランに取り込むよう、柔軟な支援を行えるよう努めております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設(市場等)に出掛け、顔なじみの関係を作れる様努力しております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は定期的に訪問診療を受けています。 家族の意向で変更を希望された場合は紹介状を書いて頂き、他病院へ通院出来る様対応しております。	利用開始時に、利用者や家族の希望を聞いて、主治医を決めている。現在は、半分の方が協力医療機関による往診、その他の方は隣接の病院受診となっている。診察結果はその都度家族に報告し、利用者の医療情報を共有している。併設事業所の看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、早期発見に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に診て頂いたり、提携の病院から定期的に看護師が訪問し、健康チェックをして頂いております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、週1回程度病院に行く様心掛けております。情報交換として、退院前等カンファレンスを開いて頂ける様努め、関係作りしております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向が表れてきた際は、家族とお話しし、今後の方針を決めたいと思います。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針として、ホームで出来る支援と出来ない支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、今後の方針を関係者全員で確認し、利用者や家族が安心して終末期を迎えられる環境整備に取り組んでいる。	今後、利用者本人や家族から看取りの希望があり、条件が揃った場合にどう対応するかを今後の検討課題として取り組み、利用者が安心して過ごせる環境を整えていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護マニュアルに、救急時の対応が記載されています。 また、提携医、かかりつけ医に連絡し、指示を仰ぎ、処置等の指示を行って頂いております。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には地域の方々の協力依頼をしております。 避難経路や、一番近くの避難場所等把握しております。	毎年2回、防災訓練を夜間を想定して実施し、火元に応じた避難経路、避難場所を確認し、2階の利用者全員が安全に避難出来るよう取り組んでいる。通報装置や消火器の使い方を確認し、2階から滑り台式の避難シューターで、安全に避難出来るように訓練し、職員の非常時における冷静な対応に繋げている。また、缶詰、乾パン、飲料水等、少しずつ非常食の準備も進めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方々に対し常日頃から尊重する声掛けや対応を行っております。	利用者のプライバシーを尊重する介護について、職員会議の中で話し合い、大きな声やあからさまな介護にならないように注意し、特に、トイレや入浴時には、利用者のプライドや羞恥心に配慮している。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	制限がある声掛け等を行わず、入居者の自由な決定を促すような声掛けを行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の場であるので、一人一人のペースに沿って生活して頂いております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の着たい服等、その人らしく生活して頂ける様支援しております。 整容の乱れや汚れ等は、さりげなくサポートしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	危険を共わない生活リハビリで、入居者様も参加して頂ける様な工夫をしております。	利用者の嗜好を聴きながら、調理専門の職員が柔軟に献立を決めて、旬の食材を採り入れながら作った美味しい食事を、利用者と職員がテーブルを囲んで同じ料理と一緒に食べる様子は大きな家族のようである。また、利用者の残存能力に合わせて、料理の下拵えや後片づけを手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の水分摂取量や毎食の食事量を把握する為に、水分摂取表や食事量を記入出来る欄を設け把握出来る様努めております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂いております。介助が必要な方は誘導を行い、職員が口腔ケアを支援しております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立している方は自力にて行かれます。一部排泄の訴えにて行かれます。他に排泄の訴え等無い方に関しては、時間おきに誘導し失禁を軽減しています。	トイレでの排泄やおムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がる事から、職員は利用者の排泄パターンを把握し、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。失禁時の対応をマニュアル化し、言葉かけに注意して、利用者の羞恥心やプライドに配慮している。また、夜間もトイレ誘導を行い、夜間帯の歩行が難しい方はポータブルトイレを利用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、食物繊維を多く取れるよう工夫しております。また、体操に参加するよう促しております。更に、各入居者様に応じた対応策を行っております。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴可能時間は午前10時頃～午後16時頃までとしております。順番については、出来るだけご本人の希望に沿うよう調整しております。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮して、柔軟な入浴支援に取り組んでいる。利用者の好みに合わせたシャンプーや入浴剤を使用し、利用者と職員が1対1でゆっくりとコミュニケーションを取りながら楽しく入浴ができるように支援している。浴槽は3方から介助出来るため、介助がしやすく、利用者の安全にも配慮されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が安心して入眠出来る様、生活習慣を把握するよう努めております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用を把握しております。処方された薬は薬状をしっかりと確認しております。状況の変化があれば、主治医、家族に連絡しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握するよう努めております。役割などを見つけ出し、継続できるように支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出として近隣の公園へ散歩等行っております。他にはレクリエーションにて外出しております。各入居者の希望を把握し、どこに行けば皆が楽しめるか考察しております。	公園の散歩や商店街の買い物を目課とし、利用者が、四季の移り変わりを五感で感じてもらい、気分転換に取り組んでいる。外出レクリエーションを定期的に取り入れ、花見や買い物、ドライブに出掛け、利用者の生きがいに繋げている。また、家族の協力を得て外出や外泊に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に関しては、本社で管理しております。お金を使う際は立替として使って頂きます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと訴えがあった際はして頂いております。手紙も同様です。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気作りを努めております。季節の花や掲示物等飾る事によって季節感を感じれる工夫を行っております。	2階建ての2階に位置し、建物内は季節の花や利用者と職員と一緒に作った季節毎の作品、利用者の笑顔の写真を飾り、季節感、生活感を大切にしたい共用空間である。また、清掃にも気を配り、利用者が気持ち良く暮らせるよう配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、語らいの場を作ったりしております。入居者同士のコミュニケーションの場です。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全入居者が戸惑いなく生活できる場として、居心地良い環境作りを行っております。各居室はその方の馴染みの物を置いたり、使いやすい配置にしております。	利用者の馴染みの家具や寝具、鏡や家族の写真等、その方にとって大切な物を持ち込んで貰い、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。利用者が以前制作した作品をたくさん飾る等、その人らしい居室作りに努め、家族や友人が訪ねて来ても、寛げる雰囲気の良い居室である、	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に生活を送れる様、手すり等設置し、見て分かるように「トイレ」等表示し、迷われる事無く過ごせる工夫をしております。各居室前には表札を掛け迷われる事が無いよう工夫しております。		